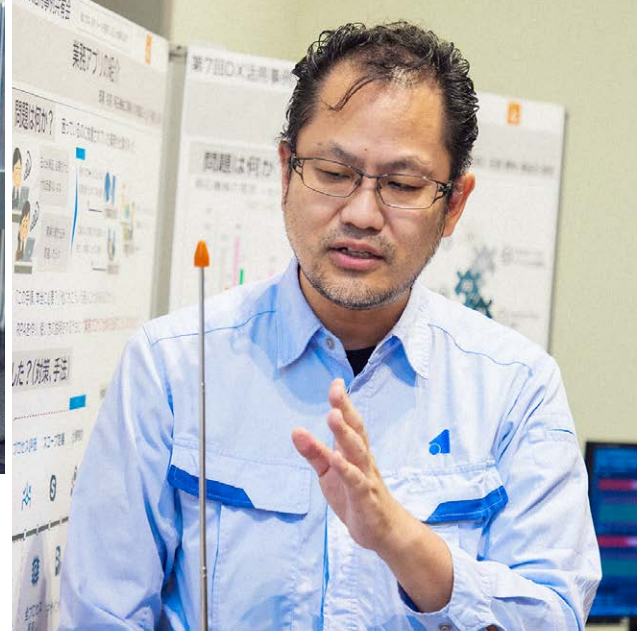
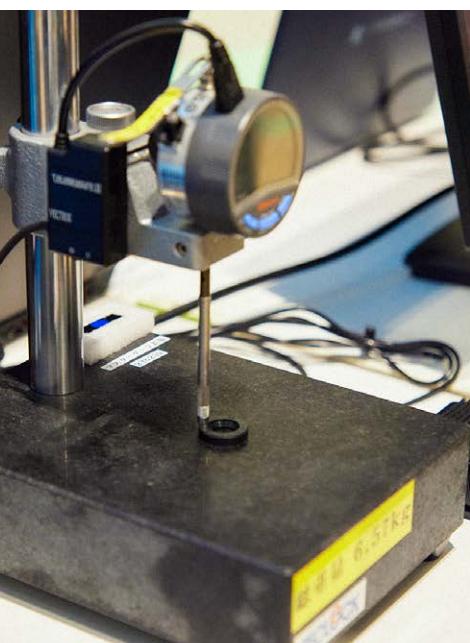




明石機械工業株式会社

DX活用事例 共有会



社内の推進体制や人材育成計画を固め 初めて「DX活用事例共有会」へ参加

当社は2023年10月にDX推進グループを立ち上げ、約1年で経済産業省の「DX認定事業者」認定を取得しました。DXビジョンや基本方針などにより2030年までのロードマップを描き、環境整備に注力しています。「DX活用事例共有会」へ初めて参加し、自社の取り組みと成果を発信することができました。

「DX活用事例共有会」とは

ダイハツ工業グループのDX推進を目的として、さまざまな活用事例をグループ内で共有するイベントです。第1回と第2回は2020年に、2021年から年に1度のペースで開催しています。担当者と話せるリアルな場と、ライブ感あふれるオンラインによるハイブリッドで行われ、参加者数は年々増加しています。

ダイハツのDX

人にやさしい

みんなのデジタル

People-friendly, digital for everyone

人にやさしい
みんなの
デジタル
DX
DAIHATSU DIGITAL TRANSFORMATION

DX認定の取得が 業務アプリの開発を加速

管理統括本部 DX推進グループ | Y.K.

当社は生成AIやデータの力を活かし、すべての社員が創造力を発揮できる「クリエイティブDX」を目指しています。変革は特別なものではなく、日常に宿ると考える私たちが、どのように全社横断型のDXを推進して、内製によるさまざまな業務アプリ開発を実現したのか？その過程についてお伝えします。



ダイハツ工業様の助言でDX認定に挑戦

当社のDX推進が本格的にスタートしたのは2023年です。社内公募に応じてさまざまな部署のメンバーが集まり、DX推進グループを立ち上げました。会社を変えていきたいという強い思いを持ったモチベーションの高いメンバーたちです。

全社的なDX推進の背景には、従来型の業務改善による個別最適では解決できない課題が増えたという状況があります。まず、アナログ業務からの脱却と自動化の遅れです。さらに、部門ごとにデータが分断され、市場や顧客ニーズの変化に対し柔軟に対応できなくなっていることも問題でした。そこで、部門の枠を越えた全社横断的な組織としてDX推進グループが設置されたのです。メンバーたちがDX推進の手ほどきを受けるためにダイハツ工業様を訪問した際に、「DX認定事業者」の取得を勧められました。そこから認定取得への挑戦が始まりました。



6人のメンバーで アプリ開発の全てを内製化

当社は2024年9月に経済産業省が定める「DX認定事業者」の認定を取得しました。認定取得に向けて準備を始めたのは2024年の5月なので、実質半年に満たない期間で外部コンサルティングを頼ることなく、6人のメンバーの力で認定を取得できたことは、大きな成果といえます。

認定を取得して経済産業省のガバナンス・コードを参考にDX推進のロー

ドマップを描く中で、業務アプリの開発とシステムとの連携、UI(User Interface)およびUX(User Experience)の設計はすべて内製化することにしました。DX推進グループのメンバーは全員がプログラムの経験があるうえに、ITが急激に発達して生成AIをはじめとするツールにより、予算と手間をかけなくても開発できる環境が整ったからです。

アプリによる費用削減額の累計が 9,000万円超に

アプリの開発テーマは社内各部署からのリクエストに応じています。優先順位を決める基準としては、ユーザーである社員の求める声が多いものです。多くの社員にメリットがあり、導入による効果が高いものです。この「DX活用事例共有会」で紹介している「オイルシール選別装置」やソラコムによる「離型剤濃度可視化」も、現場のリクエストから生まれました。「オイルシール選別装置」の開発は外注すれば100万円以上かかりますが、内製のコストは6万円です。

2024年度に業務アプリにより削減した工数の費用換算は5,500万円に達し、累計では9,000万円を超えています。さらに、アンケートによるユーザーの満足度は5点満点中で4.06点と、目標の4.0点を上回る結果になりました。現在も多くのプロジェクトが進行中ですが、DX推進グループの6名では手が回りません。社内ブログの情報発信や勉強会によりDXの浸透をはかり、ユーザーである現場の社員自身がアプリを開発して、業務を改善できるようにすることが目標です。

